

MySQL 5.5.37 リリースノート（日本語翻訳）

機能の追加と変更

- Solaris では現在、`mysql_config --libs` に `-R/path/to/library` が含まれ、ライブラリを実行時間に見つけることができる (Bug #18235669)。

修正されたバグ

- **InnoDB:** 圧縮テーブルがメモリに合わない場合、Bug #14329288 によるリグレッションでパフォーマンスが低下していた (Bug #18124788、Bug #71436)。
- **InnoDB:** `innodb_thread_sleep_delay` の最大値は現在 1000000 マイクロ秒である。以前の最大値 (32 ビットで 4294967295 マイクロ秒、64 ビットで 18446744073709551615 マイクロ秒) は不必要に大きかった。
`innodb_thread_sleep_delay` の最大値は `innodb_adaptive_max_sleep_delay` (0 以外の値に設定されている場合) に設定された値によって制限されているため、`innodb_thread_sleep_delay` の最大値は現在 `innodb_adaptive_max_sleep_delay` の最大値と同じである (Bug #18117322)。
- **InnoDB:** デバッグビルドで、複写キーを含む入力データを使用してバイナリカラムで固有インデックスを作成すると、アサーションが発生していた (Bug #18010711)。
- **InnoDB:** `innodb_data_file_path` がサイズ値に **K** を加えてデータファイルサイズをキロバイトで指定すると、**InnoDB** は起動できなかった (Bug #16287752)。
- **InnoDB:** インサートバッファマージによって、外部に保存されている BLOB の所有権情報の不正な取り扱いによるアサーションエラーが発生していた。

```
InnoDB: Assertion failure in thread thread_num in file
ibuf0ibuf.cc line 4080
InnoDB: Failing assertion: rec_get_deleted_flag(rec,
page_is_comp(page))
```

(Bug #14668683)

- **InnoDB:** [auto increment increment](#) 値の減少による次のオートインクリメント値への影響はなかった (Bug #14049391、Bug #65225)。
- **レプリケーション:** 行ベースのレプリケーションの使用時に、サーバは 4GB よりも大きい行の挿入を適切に扱わなかった (Bug #17081415)。
- **レプリケーション:** 行ベースのレプリケーションの使用時に、テーブルのスレーブバージョンの追加のオートインクリメントコラムが正しく更新されず、ゼロが代わりに挿入されていた (Bug #17066269、Bug #69680)。
- **レプリケーション:** パフォーマンススキーマテーブルの内容は特定の MySQL サーバインスタンスのみに適用でき、レプリケーショントポロジーのサーバ間で大きく異なる場合があるので、パフォーマンススキーマテーブルを含むステートメントがバイナリログに書き込まれてはならない。データベース管理者は他のサーバに影響を与えることなく単一のサーバでパフォーマンススキーマテーブルを構成 ([INSERT](#)、[UPDATE](#)、または [DELETE](#)) またはフラッシュ ([TRUNCATE TABLE](#)) できなければならない。しかし、MySQL 5.5 マスタから MySQL 5.5 以降のスレーブにレプリケーションを行った時、パフォーマンススキーマテーブルを更新しているアンセーフなステートメントに関する警告がエラーに引き上げられた。MySQL 5.6 以降のスレーブは、これによって [performance_schema](#) および GTID ([Replication with Global Transaction Identifiers](#) を参照) の同時使用ができなくなった。

この修正によって、有効なロギングのタイプに関わらず [performance_schema](#) データベースのテーブルの更新はすべてマスタでフィルタリングされ、複製されないようになっている。これ以前は、使用しているステートメントはレプリケーションにはアンセーフとマークされて扱われていたが、それが実行時に警告を招いていた。それにも関わらず、有効なロギング形式に関係なくステートメントはバイナリログに書き込まれていた。

[INFORMATION_SCHEMA](#) データベースのテーブルの既存のレプリケーション動作はこの修正で変更されていない。

詳細については、[MySQL Performance Schema](#) を参照 (Bug #16814264)。

参考: Bug #14741537、Bug #18259193 も参照。

- MySQL が引数付き `-Werror` オプションを含むように設定された `CFLAGS` で構成されると、コンパイルは失敗していた (Bug #18173037)。
- 共有 `libmysqld` 組み込みサーバライブラリは Linux 上に構築されていなかった (Bug #18123048、Bug #16430656、Bug #68559)。
- サーババージョンの印刷中、`mysql` クライアントは列変数のバッファオーバーフローをチェックしていなかった (Bug #18186103)。
- 照合での短縮形情報は誤って扱われる可能性があり、ある文字が短縮形の一部かどうかという判断の誤りや短縮形重量の計算ミスを招いていた (Bug #17760379)。
- `read only` システム変数が有効になっても `DROP TRIGGER` が成功していた (Bug #17503460)。
- レプリケーションマスタ上のパフォーマンススキーマ `setup_instruments` テーブルを更新すると、スレーブが終了していた (Bug #14539290)。
- 競合状態によって、2つのスレッドが、クエリが異なっても同じクエリ ID で終了することがあった (Bug #58785、Bug #11765785)。
- `root` で実行された場合、`mysqld --help --verbose` はヘルプメッセージを表示した後、ゼロではないエラーコードで終了した (Bug #70058、Bug #17324415)。
- Community Edition ディストリビューションからの MySQL クライアントプログラムは、Enterprise Edition から MySQL サーバへの SSL を使用して接続できなかった。これは yaSSL および OpenSSL (それぞれ Community と Enterprise に使用) による証明書の扱いの違いによるものだった。OpenSSL では `--ssl-ca`、`--ssl-cert`、および `--ssl-key` オプションのうち指定されてはいないものがある場合、空白の証明書を送信することとしていたが、yaSSL ではそうではなかった。この問題を解決するために、オプションが欠落している場合、yaSSL は空白の証明書を送信するように修正された (Bug #68788、Bug #16715064)。
- サブクエリの実行中にデッドロックエラーが起こると、アサーションが発生する可能性があった (Bug #69969、Bug #17307201)。
- 文字列値をとるシステム変数について、`SET` ステートメントはクォートしていない値を許可していたが、ドットを含む値は誤って解析され、値の一部のみが割り当てられていた。例えば、`SET GLOBAL slow_query_log_file = my_slow.log` は値 `my_slow` を割り当てていた。現在、このような値はクォートされなければならない、クォートされない場合はエラーが発生している (Bug #69703、Bug #17075846)。

- Windows で `mysql_install_db.pl` はインストールディレクトリ下の `bin` ディレクトリ内からしか実行できなかった (Bug #42421、Bug #11751526)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。